

平成22年度 第1回学校評議員会 報告

本年度第1回学校評議員会を7月21日（水）開催いたしました。

学校側からの説明に続いて学校評議員の皆様よりご意見、ご助言をいただきました。

1 学校からの説明(本年度の課題と状況)(学校各分掌より説明)

(1)進路指導

- ①新学習指導要領への移行の中で、現行カリキュラムから新カリキュラムをより充実したものとしていくことが求められている。
- ②中高連携及び高大連携を積極的に考えていきたい。

(2)生活指導

- ①人を信用しすぎ被害をうけることがあり、係より積極的に注意すべき事を喚起する指導が必要である。
- ②多くの生徒は朝夕の挨拶がきちんとできるが、声をかけられないとできない生徒もいる。教師側からの積極的な働きかけも必要と考える。

(3)生徒会

- ①朝8時から運動部・文化部が学校周辺の清掃活動を初めて3年になるがより徹底したものとしたい。
- ②生徒会としても挨拶の徹底できるように校内委員会で取り組んでいきたい。
- ③りんどう祭で生徒自主的に宮崎県口蹄疫への募金や、車いす研修を企画した。そうした生徒の自主性を伸ばしていきたい。

(4)教務

- ①公開授業、体験入学、学校説明会等で須坂高校の特色を中学生及び地域の皆様にご理解いただけるよう、努めていきたい。

(5)PTA

- ①PTA総会の出席率は約60%、6月5日の北信高P連での正副会長の発表を契機に、りんどう祭でPTA発表に取り組んでみた。PTA活動の一層の活発化を考えていきたい。

2 学校評議員の皆様からのご意見

(1)進路状況と学習体制について

- ①3月の進路結果はずいぶんがんばった。難関大学へのチャレンジはリスクが伴うかもしれないがよい実績がでた。現役合格率を気にするのではなく、チャレンジをさせてはどうか。
- ②現段階での進路指導体制の説明をうけ、もう一踏ん張りすれば進路結果はより上向くように思う。
- ③少人数講座開講は先生方の負担はあるだろうが、よい取り組みだと思ふ。
- ④実力のある生徒が集まっているので、教師側がシステムをどう創るかでより一層伸びるのではないか。
- ⑤大学進学してよかったという実態や、進学後どうだったのかという追跡調査、卒業生へのアンケートをしてほしい。
- ⑥一般的に子ども達が平均化したため個性が目立ち多様化のようにみえることもある。大学進学については、社会に出ることまで考えた指導が必要になってきているかと思う。

(2)入試選抜について

- ①前期選抜入試を廃止したが、須坂高校では前期選抜をどう総括したか。
→【学校から】校内でも賛否両論、審議を重ねた。理由次の2点から。①前期不合格の生徒もほとんど後期で受験をする。2回する意味があるかという議論。②前期の倍率が高いため、相当数の生徒が不合格となる。県内の高校の中には前期選抜の倍率が3倍を超えるというところもあり、挫折経験を多くの中学生に強いるのはいかがかという意見はでていた。
- ②前期選抜導入時、高校で実施するのは無理があると感じた。大学でも受験が多様化し高校独自の進路指導がしばらく予備校の情報に頼らざるをえなくなっている現状がある。高校入試段階における大学入試A〇型のような入試は、中学生には無理な面があると思う。
- ③自分自身中高一貫校出身。高校受験はなかった。受験のプレッシャーを中学生にかけることはどうか。

(3)生徒の様々な活動及び指導についての要望

- ①生徒会の週2回の学校周辺の清掃活動は善い活動である。
- ②控えめな生徒が多いようである。大学卒業後就職する。ユニクロなどをみていても海外へ行く気のない人はいないという企業も多い。近年、子どもは子どもも家庭も近くにおいてという傾向がみられる。留学する人も少なく内向的になっていることが心配である。
- ③生活指導に関して、高校生の交通事故を防ぐためにも自転車の乗り方指導をしてほしい。もう一つ自転車盗も多い。自分の子どもも、鍵をかけ忘れて自転車を盗まれた。挨拶については基本的なことなのでできるようにさせたい。